

一枚ポートフォリオの理論

一枚ポートフォリオの定義

「一枚ポートフォリオ」とは、堀哲夫氏が2002年に開発したもので、教師のねらいとする学習の成果を、学習者が1枚のシートの中に、学習前・中・後の学習履歴として記録し、それを自己評価させる方法を言います。

学習による変容を学習者自身が具体的内容を通して可視的かつ構造化された形で自覚できるため、その変容から学び意味を感じ取ることができます。また、教師はそれを見て、授業評価に活用することができるという利点があります。

今までもポートフォリオ評価は行われてきました。一枚ポートフォリオがそれと大きく異なっているのは、学習過程で得られる情報はどんなものでも得ようとするのではなく、あらかじめ必要とする情報に対する回答が1枚のシートの中に求められており、それを書き終わると学習終了時に学習の全体構造が一目で把握できるようになっていることです。

また、ポートフォリオというと分厚い冊子状のものという既成概念を根底から覆したものです。その背景には、使いこなすことのできない不必要な情報はもたない、得た情報は最大限に活用するという考え方が存在します。

一枚ポートフォリオの効果

〈子どもと教師双方の視点としてねらうもの〉

- ① 複雑な手続きが必要でなく、簡便で利用しやすい。
- ② 1枚のシートに書かれた学習履歴を利用することによって、これまで見えなかった最も大切なものが、子どもにも教師にも見えてくる。

〈子どもの視点としてねらうもの〉

- ① 学習の前提としての既有的知識や考えが明確になるため、学習による変容を確認しやすい。
- ② 常に学習前と後が確認できるため、学習目標を意識化し、見通しをもって学習を進めることができる。また、自分の予想、考え、履歴などを振り返り、知識や考えを深めることができる。
- ③ 学習前・中・後の学習履歴を記録するため、自分がどのように学習を進めてきたのかわかりやすい。
- ④ 具体的内容を通して、1枚のシートの中で、自分の学習による変容が可視的に確認できるため、学習の意味を自覚したり、学習の効力感を味わうことができる。

〈教師の視点としてねらうもの〉

- ① 診断的評価として、子どもの既有的知識や考えを把握することができる。
- ② 学習内容の理解状態を把握するのみならず、教師の育てたい資質・能力、例えば課題意識を明確にする力、自ら学び自ら考える力などを記録することを通して育成することができる。
- ③ 学習履歴の記録内容をもとにして、次の時間の指導を改善すること、すなわち形成的評価が可能になる。
- ④ 学習履歴に表れた記述内容を通して、子どもの学習評価および教師の授業評価に役立てることができる。つまり、総括的評価としても有効である。